

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No.101 を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇「農業廃プラの適正処理とリサイクル市場」を巡って
その3：農業廃プラ処理業者の事業継続性

名古屋大学 名誉教授 竹谷 裕之

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No.101 を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

7月14日に塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は [PVC News No.101](#) を発行しました。

今号から表紙をリニューアルしました。

No.101は「デザインと環境」をテーマにしています。

構成は以下の通りです。

【特集】デザインと環境

○ 巻頭インタビュー

デザイナーの思いをそのまま形にできるプラスチックの魅力。
素材の改良+デザイン力で「愛着の持てるものづくり」を

芝浦工業大学 教授 博士（工学） 橋田 規子 氏

○ レポート1

より多彩に、より繊細に。東リ(株)に見るタイルカーペット最新事情

○ レポート2

ロンドン・オリンピックに見る「美しくサステナブルなPVC製品」

○ レポート3

レインコートを塩ビでアップデート。上田学園コレクション2017

◎ リサイクルの現場から

発想はモノから生まれる！(株)ナカダイのリユース事業

◎ 塩ビ最前線

切って、貼って、空間を彩る。(株)中川ケミカル



◎ ものづくりの現場から

ソフビ金型のパイオニア (株)カミジョー

登場掲載記事をご紹介します。

「巻頭インタビュー」では芝浦工大の橋田先生にインタビューしました。

橋田先生は様々な素材の製品を数多く手掛けておられ、体全体で心地よさを感じるデザインを取り入れた製品の開発を実現しています。素材の改良とデザインの力によってプラスチック製品を愛着の持てる物にできるなど、これからのものづくりの方向性を語っていただきました。

「レポート」では床材メーカーの東リ(株)の和のデザインを取り入れた新たなタイルカーペット製品、環境に配慮したタイルカーペットの洗浄・保管・再施工するメンテナンスシステムの紹介や、大阪の『上田学園コレクション 2017』での塩ビシートを使ったレインコートを紹介しています。

「リサイクルの現場から」は中間処理会社のナカダイ(株)。廃棄物を集め処理するだけでなく、ワークショップなどを通し多くの人に触れてもらい、そこから出てくるアイデアを活用しリユース製品として広く社会に知ってもらう活動をしています。

「塩ビ最前線」は(株)中川ケミカルのカッティングシートを紹介しています。今では屋外でもよく見かけるようになったカッティングシート。開発までの歴史や新たなカッティングシートを取材しました。

『PVC ニュース』は [JPEC のホームページ](#) から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

■ 随想

◇ 「農業廃プラの適正処理とリサイクル市場」を巡って

その3：農業廃プラ処理業者の事業継続性

名古屋大学 名誉教授 竹谷 裕之

前回、農業廃プラ処理業者は 2000 年代初頭を転機に淘汰の時代に入ったことをみました。今回は業者動向のもう一つの特徴も見ましょう。

下表は、業者の農業廃プラ処理事業への参入・退出・継続の実態を把握するために作成しました。表頭の「1998～2012」は 1998 年度から 2012 年度まで処理業者リストに継続して載っている業者数であり、「1998」は 1998 年度の処理業者リストに載っていたものの、それ以降は載っていない業者数です。その他の年度も同様に読みます。つまり前者は農業廃プラの事業継続性が高いのに対し、後者は継続性がなく、短期に退出していると読むことができます。道県毎の業者参入数は該当行を横に足した合計値です。

表 業者の農業廃プラ処理事業への参入・退出・継続性

年度	1998 ～ 2012	1998 ～ 2010	1998 ～ 2006	1998 ～ 2002	1998	2002 ～ 2012	2002 ～ 2010	2002 ～ 2006	2002	2006 ～ 2012	2006 ～ 2010	2006	2010 ～ 2012	2010	2012	合計
北海道	9	1		3	11	17			15	20			2			78
岩手	1	3		1	6		2	1	7	2	1	2			6	32
栃木	4	1	1		5	1	3		3	1	3	4	2			28
愛知	3	1		2	8	5	2	1	17	1		2	6	3	2	53
熊本	1			3	1	1			6	1				2		15
鹿児島	4	4		1	5	1	1		2	1	3				1	23

資料：農水省「園芸用ガラス室・ハウス等の設置状況」各年版、日本施設園芸協会「園芸用プラスチック適正処理の手引き」2017.2。著者の集計に基づき作成。

注) 北日本、東日本、西日本の各地方から三セク業者の活動しない地域で代表的な道県を表示。表頭の1998～2012は上記資料で1998年度から2012年度まで継続して業者名が記載されているケースの業者数、1998は1998年度のみ業者として記載されているケースの業者数を示す。他の年度も同様である。

これを念頭に同表をみると、2012年度も処理業者がなお増加傾向にある北海道では「1998年度のみ」11件、及び「2002年度のみ」15件の計26件が短期間に参入退出しているものの、「1998年度から2012年度まで継続」9件、「2002年度から2012年度まで継続」17件、「2006年度から2012年度まで継続」20件などと、継続性の高い処理業者が多い地域となっています。

これに対し、岩手県は「1998年度のみ」6件、「2002年度のみ」7件、「2006年度のみ」2件、「2012年度のみ」6件と、全32件のうち21件が単年度のみリストに登場します。業者の短期間参入退出する地域となっています。

愛知県は農業廃プラ排出量の多いことを反映し参入業者数は計53件と岩手県に比べ多いものの、うち32件が単年度のみリストに登場する短期間参入退出が目立つ地域となっています。栃木県や鹿児島県は単年度のみ登場する業者数がいずれも参入業者合計の44%にとどまり、相対的に事業継続性が高い地域です。

もっとも農業廃プラ処理業界全体としては、中長期に処理業務を継続する業者が存在し、処理産物の種類の拡大・多様化を図りながら、農業廃プラ適正処理の重要な核を担うものの、むしろ農業廃プラ産業（市場）の特性を知らずに参入し短期間に退出してしまう業者が過半を占める地域が多いことを特性としていることを注視しておく必要があります。

さらに例えば2006年度、リストアップされた延べ491の処理受託業者について、複数の都道府県で処理実績を有する業者をみますと、22業者が延べ99道県でリストアップされ、最大の活動エリア実績を有したのはSA社の15道県、次いでTA社が10県、KV社及びKU社が各8県、KK社が7県と続いていました。複数道県で活動する業者が全体の20%、SA社の処理量は1万tを超えるだけに業界へのインパクトは大きい業者です。残り80%は一つの都道府県で活動するタイプということになります。

但し、2006年度複数道県で実績を上げた22業者のうち、2012年度に複数の道県で処理実績を上げた業者は8社にとどまり、1つの県に活動エリアを縮小した業者が6社で、残り8社は農業廃プラの処理を中止しています。SA社の場合、2006年度の15道県のうち、2012年度も継続しているのは9道県で、残り6県は実績がなく、新たに3県で処理実績を上げています。

これを見ると広域的に農業廃プラを回収し処理する業者は、存在感は大きいものの、活動エリアは拠点的なところは確保するものの、入札競争で処理受託できないことも少なくなく、必ずしも安定したものではありません。その意味で、農業廃プラ処理は地域資源利用型産業であり、その経営を持続させるのは容易でないとみることができます。

もっとも、農業廃プラのうち農業用廃塩化ビニールフィルムを主に処理する業者は、関東の三セク業者を除けば、四国・九州に4社偏在し、その活動範囲の継続性は高く、西日本の廃農ビ処理の拠点として機能している点も合わせみておく必要があります。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

「ゲリラ豪雨」「線状降水帯」

近年耳にする気象用語なのではないでしょうか。ゲリラ豪雨は、昔は「夕立」と呼ばれ、一面風流さも感じていたくらいですが、負のイメージを強調するために頻繁に使われるようになったものなのでしょう。線状降水帯は、以前は「集中豪雨」だったのでしょうか、耳新しいせいか一段とレベルが上がった印象があります。このような異常気象は昨年までは、ラニーニャだとか、エルニーニョだとかペルー沖の海面水温との関係で、説明されていたと思いますが、今年は「地球温暖化」の一言で片づけられているような気がします。「地球温暖化は嘘だ！」の意見もあるわけですが、個人的な肌感覚で言うと、地球は温暖化しています。（∵ 自分は冬の寒さに強くなったと思うから）（JINJIN）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp